



奈良町にぎわいの家
つし二階アート企画
VOL. 12
「孔はやがて空になる」

奈良町にぎわい通信

Vol.30

二〇一七・寒露〜霜降

発行
奈良町
にぎわいの家



奈良町にぎわいの家・百年企画
つし二階アート企画VOL. 13
「そして、新たに生まれる」





倉橋みどり先生による
二十四節気講座・秋



「茶良2017」茶歌舞伎



おはぎ体験は台風で中止に。
スタツが作った
おはぎをお供えました。



秋のお茶の香り



美風流
中谷美風先生
のお話

「茶良2017」
煎茶体験



史料保存館コラボ企画「タイムトラベル奈良町」
「奈良町の芝居小屋・尾花座」



奈良町にぎわいの家 9月のイベントから



かまどサミット(詳細はレポートを)



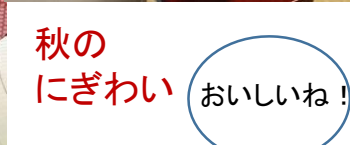
体験茶会「立秋」



皆さん一緒に
点てましょう。



蔵展示「かまどパネル展」



秋の
にぎわい

おいしいね!



栗の皮はてごわいなあ。



かまど体験
栗ごはん



おいしいね!

奈良町かまどサミット(9/26)レポート



当館・築100年企画のメインイベントとして「～知って、味わう、かまどの集い～」をテーマに開催しました。まず、かまど職人として、重要文化財のかまど再現や、アフリカでのかまど作りにも携わって来られた宮奥淳司さんに実際の画像を見ながら、その歴史や構造をお話いただきました。石や瓦で土台を作り、荒土、土、漆喰できれいに仕上げる。外からは見えないところに、職人の技がたくさん隠されていることを知りました。

次に、奈良町物語館、奈良町南観光所「鹿の舟」、旧田中家住宅、当館のかまどの活動の報告を。かまどを通して、便利な機械では味わえない五感を使った体験に、子どもも大人も楽しんでいる様子が報告されました。市内のかまど、これからも注目！です。

続いて、当館、来館の折、お客様が書いてくださった、かまどエピソードを朗読。富山、高知、岐阜など全国から寄せられたのかまどの思い出には、かまどのお湯で行水したらご飯のにおいがしたなど、愉快なお話もありました。最後にお待ちかねの、かまどご飯のおむすび体験！梅干し、おかか、ネギ味噌と三つの具を選んでいただき、ほかほかご飯でおむすびを作っていただきました。「いやー、やっぱりうちの炊飯器で炊いたんとは違うね～」と、おかわりをする方もおられ、大盛況でしたよ。

このサミットと並行して、かまどパネル展も開催！奈良のかまどの写真がドーンと大きなパネルに。生活、暮らしの場でありつつ、かまどの神様の気配も感じられるような、「食」の場の空気が伝わってくる展示でした。

西村智恵(当館スタッフ)

つし二階アート企画Vol.12&13から 町家とアートの風景

今号の表紙は、9月、10月開催の「つし二階アート企画」の風景です。この二年間の「つし二階アート企画」は、天井の低い独特な空間と様々なアーティストがコラボ、伝統的な「町家」空間に新たな発見と魅力を創り上げてきました。葛本康彰さんの「孔はやがて空になる」と浅山美由紀さんの「そして、新たに生まれるく過去から未来へ」は、つし二階に加え、座敷、茶室、庭など、全館に渡って展示、不思議とマッチする作品は、新たな町家のスタイルを提案してくれるかのようです。海外からのお客様も興味深く見ていました。今後も現代アート&町家の新たな風景をお楽しみに！

浅山美由紀展、葛本康彰展のリーフレット



朝の目覚め
くつきりとして寒露なり
黄菊白菊ひらきはじめぬ
朝の目覚めがくつきりとして、
引き締まるような寒露のころ。
黄菊や白菊が
開き始めましたよ。

オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク・
はがきデザイン
金田あおい(藍寧舎)

奈良町にぎわいの家 二十四節気葉書 ～寒露～

事務局だより

2017
霜降号

かまどと五感

事務局長 藤野正文

爽やかな秋。とはいっても衣替えをして、もうじき来る冬に備えないといけない季節になりました。季節は「寒露」から「霜降」に。この季節は特に一日ごとに気温の変化があり、出かける時も気を使いますね。そして耳をすませば虫の音が楽しめる季節。また、本格的な秋の到来で、食べ物がおいしい季節。栗ご飯にシイタケやシメジ、サンマが美味しいですね。

奈良町にぎわいの家でこの秋は「かまど体験」で栗ご飯をつくって、皆さんが楽しんでいました。また、九月にかまど職人の宮奥淳司さんと奈良町でかまどを使っている方々が集い、「奈良町かまどサミット」も開催しました。最近、かまどは様々なイベントなどで活躍したり、食事処では、かまど炊きを売りにされているようです。

電気・ガス釜ができ、スイッチ、タイマーを入れれば簡単にお米が炊ける便利な時代になり、お米を炊くかまどの役割はなくなりました。しかし、過去の遺産であったはずのかまどが、何故、皆さんの関心を呼ぶのでしょうか？単に懐かしさだけでなく、何か引き付けるものがあるのでしょうか。

るのでしよう。

薪にマッチで火をつけて、火吹き棒・うちわで空気を送ります。火の熱が顔や手に。木が燃える音が耳に目に。煙の臭いが鼻や目に。お湯が湧くと目が湯気の行方を追いかけて。炊き上がる音が耳に。そしてふたを開けるのが一番の楽しみで、お米の香りが鼻に目に。最後に御飯を味わいます。

そう考えると、かまどは、現代の生きる人が本来人間に備わっている五感（物やヒトが外界を感じ取るための感覚機能）を取り戻す装置、と思えてきます。にぎわいの家では「かまど体験」を月二回程度行っておりますので、皆さん、ご参加を。五感で楽しみましょう。

絵手紙講座

秋の味覚をテーマに！



柿に栗！美味しくかけました！



にぎわい秋のしつらえ

今年は10月4日が仲秋の名月。当館も毎年、月見のしつらえを。お客様の写真スポットに！



スタッフの生け花、好評です。

奈良町にぎわい通信vol.30

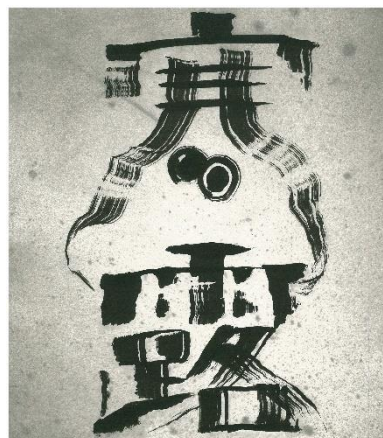
制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

<http://naramachi-nigiwainoie.jp/>

書...逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



寒露

10/8~22



霜降

10/23~11/6

草の実を丹念に取る
夕まぐれあかあか燃えろ
秋の竈は

前登志夫(歌人)